

## 小笠原国立公園兄島におけるグリーンアノール対策費

【25年度補正】102百万円

自然環境局国立公園課

### 1. 事業の概要

小笠原諸島世界自然遺産の核心地域の一つであり、貴重な生態系が維持されている兄島において、平成25年3月、初めて外来生物グリーンアノールの侵入が確認され、希少昆虫や花粉媒介昆虫の捕食、それに伴う植物の衰退など、世界自然遺産としての資質が失われかねないことから、世界自然遺産からの登録取消も危惧される深刻な事態となっている。

このため、小笠原諸島の世界自然遺産としての顕著で普遍的な価値の重要な構成要素である兄島本来の自然生態系を維持保全するために、兄島におけるグリーンアノールの緊急防除（捕獲）を行う。

### 2. 事業計画（業務内容）

- 兄島における生息実態・分布実態の把握
- 粘着トラップの設置によるグリーンアノールの捕獲
- 個体群の拡散防止
- 再侵入の防止

### 3. 施策の効果

グリーンアノールによる被害を最小限に抑えるためには、早期に対策を講じることが不可欠であり、それにより、小笠原諸島兄島の重要な生態系が保全される。また、世界遺産登録は観光入込数の増加による経済的な効果も期待される施策である。そのため、小笠原諸島の世界遺産登録が取り消されることは、地域経済の急速な落ち込みに繋がることが想定され、それを防ぐことによる経済効果は大きい。

# 小笠原国立公園兄島におけるグリーンアノール対策費

平成25年度補正予算額102百万円

## 小笠原諸島

- 昭和47年に国立公園に指定
- 平成23年に、固有種が多い独自の生態系、生物の進化を示す典型的な見本であることが評価され、世界自然遺産に登録



## グリーンアノールの侵入と生じている問題



グリーンアノール  
(オガサワラゼミを捕食中)



捕食



左:オガサワラアオイトンボ(父島で絶滅)  
右:オガサワランジミ(父、兄、弟、姉島で絶滅)

## グリーンアノールとは？

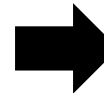
- 1960年代に父島に貨物に紛れ侵入
- 1980年代には、母島に分布を拡大
- 現在、**数百万匹以上に増加**
- 固有種であるオガサワラアオイトンボやオガサワランジミなどの昆虫類を捕食し、**地域絶滅等の甚大な被害をもたらしている**

平成25年3月に  
兄島で初めて確認

## 世界遺産としての兄島の価値

- ◆ 兄島は、小笠原諸島固有の乾性低木林の生態系が健全に残存する世界自然遺産の核心となる地域の一つ。
- ◆ グリーンアノールが兄島にて分布を拡大し、定着することは、世界自然遺産としての顕著で普遍的な価値を著しく損なうこととなるおそれ。

緊急  
対策



## 具体的な対策

- ◆ 生息実態・分布実態の把握
- ◆ 粘着トラップによる数の低減
- ◆ 個体群の拡散防止
- ◆ 再侵入の防止



捕獲トラップの設置